

I 赤坂子ども中高生プラザの概要

1 基本理念及び運営方針

赤坂子ども中高生プラザ（以下、「赤坂プラザ」という。）は、港区立子ども中高生プラザ条例（以下、「条例」という。）に基づき、児童の健全育成を旨とし、心身の健全な発達を目指して、下記の基本理念と運営方針の下に運営しました。

<基本理念>

赤坂プラザは、権利行使の主体として子ども観に立ち、条例に基づき、下記により、子どもの権利を擁護し、健やかな成長を願って事業の運営を行います。

1. のびのび楽しく過ごす心を持ち、ありのままの自分に力があることを自覚し、自主的に活動を進められるように支援します。
2. じっくりと考える力が育つことを働きかけ、仲間とともに協力し、自治を作っていく力を育てます。
3. 一人ひとりの違いを認め合いながら、人間として温かな心を育むよう支援します。
4. 生き生きと健康な身体を作ることを働きかけ、児童の体力増進のための活動を進めます。
5. 中高生が心地よく過ごせる居場所となるよう環境を整え支援するとともに、自主的に文化、芸術、スポーツ活動の向上を図れるよう、活動を進めます。
6. 地域の乳幼児や小学生と子育て中の保護者が、主体的に、生き生きと安心して過ごせる場を作ります。
7. 学童クラブの子どもたちが生活の場として安心して過ごし、個々の力を伸ばせるよう働きかけます。
8. 地域との連携を深め、協力、交流を行うための組織を作り、活動を進めていきます。
9. 児童に関わる情報収集に努め、発信、提供の場になれるようにします。

<全体の運営方針>

1. 来館者一人ひとりのベスト・インタレスト（最善の利益）を出発点とした運営を行います。
2. 地域をステージとした多様な活動に参加できるように、拠点施設としての運営を行います。
3. 児童が友情を育み、仲間と集える新しい居場所を共に作っていく運営を行います。
4. 障害のあるなしに関わらず、だれもが自分らしい選択で活動できるノーマライゼーションの考えに基づく運営を行います。
5. 子育て中の家庭を支援し、親も成長できる共生の視点から運営を行います。
6. 高齢者施設との交流を深め、世代間交流を促進する運営を行います。
7. ボランティアの育成を進め、社会参加への機会となる運営を行います。
8. 利用者の個人情報保護の適正化に取り組むとともに、職員の倫理綱領に基づく行動規範を遵守し、サービスの質の充実を図ります。
9. 地域に信頼され、親しまれる施設、より一層賑わいのある施設を目指します。

＜具体的な方針＞

条例に基づき、児童が心身ともに健やかに成長し、豊かな情操を育むため、大型児童センターとしての役割を果たしつつ、地域とともに育つ視点から、開かれた施設づくりを進めます。

このため、乳幼児から18歳未満の児童の心のよりどころとなり、かつ居場所として、児童の体力増進、文化・芸術活動の拠点になるよう、企画運営を行っていきます。

1. 地域とともに育ち、信頼される施設を目指し、開かれた施設づくりを推進します。

- (1) 児童が安全に、安心して過ごせる施設運営を行います。
- (2) 児童の遊びや体力増進、文化・芸術の拠点となるような企画と運営を目指します。
- (3) 児童を優先しつつ、地域のニーズに柔軟に答えられるよう、開かれた施設運営を行います。
- (4) 児童に関する関係機関、就中近隣の機関と連携し、有機的なネットワークを構築します。
- (5) 学童クラブの制度改正及び入会定員増に適切に対応し、更に充実した運営を目指します。
- (6) 港区の「子どもの未来応援施策」実現に向け、中高生の居場所機能を充実させるとともに、小学生の利用時間拡大にも取り組みます。

2. いろいろなニーズを持った児童が参加しやすいように、常に利用者の状況を把握し、自主的な活動を支援し、ともに行動しながら、交流する喜びや満足を感じられるような活動内容を提供します。

- (1) 職員の専門性を高め、質の高いサービスを提供します。
- (2) 中高生に対しては、地域等の協力も得ながら、本物の文化、芸術、スポーツなどの素晴らしさを伝えられるような活動を展開していきます。
- (3) 児童が自主的に参加できる場所として、児童の欲求を敏感に捉えながら、自主的な活動を進められるよう、配慮をしていきます。
- (4) 障害児の夏季休業日等の受け入れに、適切に対応し支援します。

3. 高齢者施設との交流を大切にします。

- (1) 併設の高齢者施設を利用される方々と、日常的に自然な交流ができるよう工夫し、世代間交流ができるような活動を企画します。
- (2) 高齢者施設との交流については、ボランティアや見学を行うとともに、併設施設に限らず、近隣の元気な高齢者の利用施設とも連携し、児童がより高齢者福祉に興味、関心を持つことができるような機会を設けます。

2 利用日及び時間

(1) 赤坂子ども中高生プラザ

条例に基づき、利用に関し、次の通り運営を行いました。

【開館時間】 午前9時30分から午後8時

(小学生の利用は、ひとりで帰れる時間を考慮し、「午後6時まで」を推奨)

※ 障害児夏季休業日等支援事業による受入れ拡大 午前8時30分から

【開館曜日】 月曜日から日曜日

(ただし、国民の祝日に関する法律に定める休日、年末年始の12月29日から31日及び1月2、3日は休館)

年末施設開放 12月29、30日の午前9時30分から午後8時

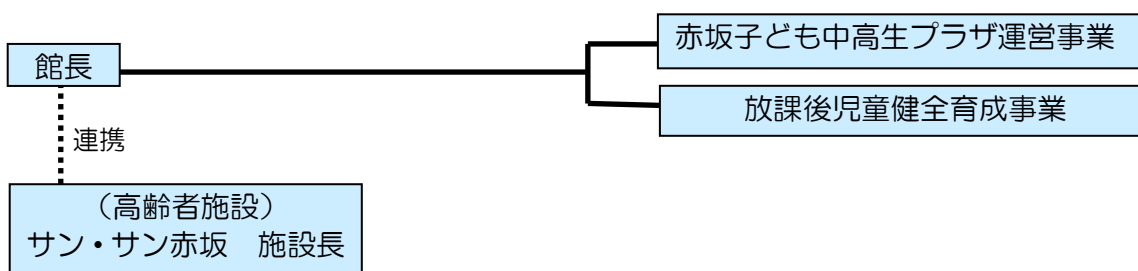
(2) 学童クラブ

港区学童クラブ運営要綱に基づき、利用日及び時間について、次のとおり行いました。

- ① 月曜日から金曜日 下校時から午後7時
土曜日 午前8時から午後5時
- ② 学校休業期間中 午前8時から午後7時
(但し、土曜日は午後5時まで、日曜日は休室)
- ③ 定 員 120名

3 運営管理

(1) 組織体制



(2) 職員体制

区分	館長	事務員	児童指導員			その他	合計
			プラザ	学童クラブ	子育て広場		
正規・常勤	1		8	3	3		15
非正規	常勤	1	1	2			4
	非常勤	1	5	1	2		9
計	1	2	14	6	5		28

平成30年3月31日現在

Ⅱ 赤坂子ども中高生プラザ運営事業

1、平成29年度 運営方針・指導の重点（学童クラブ共通）

(1) 年度運営方針

平成29年度は、「小学生世代を重点対象」とした、環境作り・仕組みづくりに重点をおいた運営を行った。

(2) 指導の重点

- 赤坂子ども中高生プラザに「また遊びに来たい!」と思われるような、職員との関係づくり、企画運営を行った。

- 館での「あいさつ」や「受け答え」がきちんとできるようにすることを目標とした指導・支援を行った。

(3) 主な取組

月	企画名	内容	参加者数
4月	新入生対象 館内スタンプ ラリー	児童が来館した日に、館内出勤職員に名前を尋ねた後、自己紹介をするなどの交流をした後、カードにスタンプがもらえる。スタンプ総数に応じて、入学祝景品がもらえる。	30人
7・8月 夏休み 期間中	夏休み スタンプラリー	児童が来館した日に、フロントにてカードにスタンプを押し、9月に開催する15周年記念パーティーにおいて、スタンプ総数に応じて、表彰する。	151人
8月	アリーナ おばけやしき	アリーナにおいて「お化け屋敷」を楽しむ。	109人
9月	① 15周年記念 パーティー	赤坂子ども中高生プラザ開設15周年を記念したパーティーを行う。 また、夏休みスタンプラリーの表彰式も行う。(全世代対象)	247人
3月	① クラブ カーニバル	当館実施クラブ活動のまとめ、および活動の成果を発表する。 (バトン、ダンス、合唱、料理、フットサル、バスケット)	175人
年2回	① 小学生 なんで〜も 委員会	館内のルールや企画などを発案し、実現できるよう小学生同士で話し合う。	(5回) 71人
通年	① 各部屋 リクエスト企画	職員側から提供する企画ばかりでなく、「小学生なんで〜も語ろう会」等を通じて得られた、児童からのリクエストに応える企画を実施する。	アリーナシアター 72人 ゴルフ&ポップコーン 20人 NARUTO大会 (Wiiゲーム) 18人

(4) 総括

- 小学生利用者に対し、館での「あいさつ」や「受け答え」がきちんとできるようにすることを目標とした。継続した指導を行うため、日頃、まず職員の方から「あいさつ」の声かけを行った。それによって、「あいさつ」が出来るような小学生も増えたことが実感できた。また、その半面、なかなか「あいさつ」ができない小学生も見受けられたことから、今後も継続して「あいさつ」や「受け答え」ができるよう、小学生に限らず全世代を対象として指導をしてきたい。
- 上記(3)の主な取り組みとして実施した「なんで～も15周年記念パーティ」において、今まであまり当館の利用が見られなかった小学生が、この行事を契機に「なんで～も」へ頻繁に来館をするようになった小学生が複数名見受けられた。
頻繁に来館するようになった児童に関しては、各職員との交流を深めることができ、「また、なんで～もに遊びに来たい!」と思われるような、「居場所」としての施設運営ができた。
- 「小学生なんで～も委員会」と称して、小学生利用者との「子ども委員会」を複数回開催した。参加者の多くは小学生の低学年であることから、当館全体を対象とした委員会とはせず、メディアルームやクラフトルームなどと部屋別の意見広聴を行った。
その中で、小学生から要望のあったアリーナ企画の実施や、メディアルームのゲーム機利用方法などを変更し、利用者の要望を実現する方向へと導くことができた。

2 児童館事業

(1) 小学生対象の事業

定期活動

【メディアルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
通年	ペーパークラフト	パソコンを使った工作 (季節に関連するもの、車や人形、バック、箱等)	約200名
通年	ローマ字検定	決められた時間の中でローマ字入力を習得し、検定を受ける	約120名

【クラフトルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
通年(16回)	期間工作	小学生向けのおすすめ工作を月に1～2回、作り方の掲示や材料を用意し、提供	約1,200人

特別活動

【メディアルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
通年(1回)	ローマ字検定王	通常のローマ字検定とは異なる内容でローマ字タイピング練習を行う。	12人

年1回	なんで～も委員会 リクエスト企画 「NARUTO 大会」	小学生なんで～も委員会で発案したゲーム 大会	18人
通年(4回)	リクエスト シアター (アリーナシアター)	映画等をステージの大画面で上映する うち、1回はなんで～も委員会発案。	207人
通年(25回)	月間企画	制作活動 季節に関する製作活動 インターネット講習会など	297人
年1回	絵画コンテスト	ペイント機能を使った絵画のコンテスト	25人

【クラフトルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
63回	月間企画	テーマ・材料を決めての工作など	649人
6回	陶芸教室	講師による陶芸活動 (お皿、マグカップ作り)	63人
1回	高学年企画	高学年向けの材料、道具を使ったアクセ サリー作り、工作等	12人
6回	料理活動 クラ COOK タイム	ランチ作り・おやつ作りなど ※乳幼児を除く。	116人

※「クラ COOK」の「クラ」とは、「クラフト」の意味。

【スタジオ I】

実施回数	活動	内容	参加人数
1回	伝統文化	講師による茶道体験	10人
30回	音楽活動	ハンドベル (Ring Dong ず) の演奏体 験、バレエ体験、館内発表会への出演	289人
6回	ことさん	講師による箏・三味線の演奏体験、 館内発表会への出演	90人

※ボランティア講師による箏三味線教室、茶道体験も開催 (別掲)

【アリーナ】

実施回数	活動	内容	参加人数
41回	月間企画	集団遊び、スポーツ企画 (ザ・卓球等) リクエスト企画 (雪玉合戦等) おばけやしき	779人

24回	ドッジボール	港区児童館ドッジボール選手権大会に向けた練習	711人
3回	講師企画	ニュースポーツなどのスポーツ指導	74人

※アリーナシアターはメディア企画として報告。

※港区児童館ドッジボール選手権大会に参加

【その他】

- ・東京都児童館交歓フェアに「レッツ！バトン！！クラブ」参加
- ・港区小学生バスケットボール大会の見学に「バスケットボールクラブ」参加

(2) 中高生対象の事業

定期活動

【なんで～も委員会】

実施回数	活動	内容	参加人数
第3日曜日 (12回)	委員会 (年間登録)	プラザ(館)の運営に関する話し合い、 活動内容の検討など	124人
	プロジェクト (企画チーム活動)	企画検討・実施準備、活動実施	

※納涼祭、文化祭にて「なんで～も委員会の店」出店

【中高生居場所事業】

実施回数	活動	内容	参加人数
通年	まなび舎	ラウンジ内に専用の勉強コーナーを設置し、 自主学習の場の確保 中高生の交流の場の確保	1711人
第2火曜日 (12回)	NAN-CAFE	異学校、異学年の児童となんで～もの職員やOB大学生などが、菓子類や飲料を飲食しながら語り合い交流する「しゃべり場」	134人
第3火曜日 (12回)	NAN-COOK	異学校、異学年の児童となんで～もの職員やOB大学生などが、軽食を調理し食しながら語り合い交流する「しゃべり場」	121人
12回	NAN-SPO	異学校、異学年の児童となんで～もの職員やOB大学生などとスポーツで交流する	135人
第4日曜日 (12回)	TBP	異学校、異学年の児童となんで～もの職員やOB大学生などが語り合い、該当月に誕生日を迎える中高生をお祝いし、交流する	104人

特別活動

【中高生居場所づくり事業】

実施回数	活動	内容	参加人数
1回	館内宿泊「まなび舎 in なんで〜も」	・長期休業期間中の宿泊を伴った自主学習支援企画 ・大学生ボランティア等による学習支援	7人
10回	まなびちゃん	大学生ボランティア等による学習、スポーツ交流、進路相談会	119人

【メディアルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
2回	中高生メディアシアター	中高生のリクエストによる映画鑑賞会	8人

【クラフトルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
6月 7月	納涼祭小物づくり	納涼祭出品「スイーツデコ」「消しゴムはんこ」の作成	6人
9月 10月 11月	文化祭展示作品づくり	文化祭展示作品「モザイクアート」の作成	63人
2月	プラザニア小物づくり	プラザニア出店「プラバンストラップ」の作成	7人

【スタジオⅠ】

実施回数	活動	内容	参加人数
2回	ダンスレッスン	講師によるダンス指導	12人

【スタジオⅡ】

実施回数	活動	内容	参加人数
12回	予約会議	スタジオ利用に関する次月の予約、連絡調整、バンド交流	153人
2回	バンド総会	バンド同士の交流、より良く利用するための会議	43人
2回	バンドレッスン	講師による技術的なバンド指導	29人

※港区中高生プラザ5館合同ライブ、SWING 赤坂にも出演（別掲）

【アリーナ】

※プラザカップ（港区プラザ中高生フットサル交流大会）、
港区プラザ中高生バスケットボール交流大会、
中高生フットサル交流に参加（連携行事にて報告）

(3) 全年齢対象の事業

特別活動

【ラウンジ】

実施回数	活動	内容	参加人数
10回	月間企画	歌、紙芝居、読み聞かせ等 ボードゲーム大会、季節のお楽しみ会	256人

※スクールサポーター（赤坂警察署）による交通安全教室、消防署員による火災予防講話も開催（別掲）

【メディア】

実施回数	活動	内容	参加人数
35回	メディアシアター	大型テレビを使つての映画上映。	1063人

【クラフトルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
9回	じっくり週間 ワークショップ	（4月の新入生対象企画） テーマ・材料を決めての工作等	380人
通年（12回）	期間工作	乳幼児からおすすめの工作を月に1～ 2回、作り方の掲示や材料を用意し、 提供	約1,200人

【スタジオI】

実施回数	活動	内容	参加人数
5回	スタジオ じっくり週間	（4月の新入生対象企画）シルバニア ファミリーなどの人形を用意	34人
8回	あそべるスタジオ ～あそスタ～	ピアノ、カラオケ、ボードゲームなど 各種遊びを用意	137人

【アリーナ】

実施回数	活動	内容	参加人数
11回	アリーナに集合	子どもリクエストによる集団遊びや スポーツ ※乳幼児を除く。	288人

【その他】

実施回数	活動	内容	参加人数
6月 10月 12月 3月	忘れ物展示会	館内で届いた落とし物・忘れ物を展示 （期間：各1週間）	約3,900人

3 子育て広場事業

(1)「乳幼児と保護者」対象の事業

定期活動

実施回数	活動	内容	参加人数	対象
通年(43回)	りすさんグループ はいはい・よちよち	手遊び、音楽遊び、 工作、読み聞かせ ふれあい遊びなど	1,582人	H27.4～ H284.1 生まれ の乳幼児・保護者
通年(35回)	りすさんグループ ねんね	手遊び、音楽遊び、 工作、読み聞かせ ふれあい遊びなど	900人	H28.4～生まれ の乳幼児・保護者
通年(45回)	うさぎさんグループ	手遊び、音楽遊び、 工作、読み聞かせ ふれあい遊びなど	1,368人	H26.4～ H27.4.1 生まれ の乳幼児・保護者
通年(47回)	こぐまさんグループ	手遊び、音楽遊び、 工作、読み聞かせ ふれあい遊びなど	1,138人	H22.4～ H26.4.1 生まれ の乳幼児・保護者
通年(36回)	わいわいクラブ	アスレチック、リ ズム体操、かけっ こ、集団遊び、ふ れあい遊びなど	1,099人	幼児(2歳以上)・ 保護者
通年不定期 (12回)	運動あそび	アスレチック、リ ズム体操、かけっ こ、バルーン、ふ れあい遊びなど	335人	りす・うさぎグル ープ・保護者
通年(40回)	FCなんで～も	幼稚園児対象とし たサッカーを中心 とした運動遊び	546人	幼稚園児・保護者
通年(20回)	なんで～もであそぼ 1, 2, 3	楽器遊び、歌遊び、 リトミックなど音楽 を主題とした活動	623人	乳幼児と その家族
通年(12回)	アトリエなんで～も	幼稚園児対象で、講 師を招いた造形活動	163人	幼稚園児
通年(12回)	ファミリータイム	季節にちなんだ食 育やクラフト活動	144人	乳幼児と その家族
通年(21回)	たんぽぽクラブ	民生・児童委員によ る子育て支援活動	414人	乳幼児・保護者
通年(月～金) (240回)	お昼の体操	幼児向けのダンス を中心とした活動	3,681人	乳幼児・保護者
夏季(11回)	キラキラプール (水遊び)	「ふれあい広場」 での水遊び	196人	乳幼児・保護者

特別活動

実施回数	活動	内容	参加人数	対象
通年(2回)	みなと保健所との連携事業	① 歯科衛生士の講話 ② 環境衛生士の講話	① 21人 ② 46人	乳幼児・保護者
通年	講師による企画	①妊婦対象セラピー ②ベビーマッサージ ③骨盤リセットヨガ ④リトミック(全6回) ⑤英語で遊ぼう	①2人 ②20人 ③19人 ④184人 ⑤28人	乳幼児・保護者
通年(6回)	赤坂図書館との連携事業	各グループ活動内にて「おはなし会」	156人	乳幼児・保護者

(2) 保護者対象の事業

定期活動

実施回数	活動	内容	参加人数
通年(17回)	保護者対象制作企画	陶芸教室 PC教室 年賀状づくり など	184人
通年(10回)	保護者対象スポーツタイム	リフレッシュ目的のバドミントン、バレーなどの実施	61人
通年(13回)	な〜んでも「お聞きします」(日本ガーディアン・エンジェルスとの連携事業)	日本ガーディアン・エンジェルスから派遣されたボランティア相談員「スマイルさん」(心理士等)による相談活動	615人
通年(8回)	☺こころスッキリ「ここスキ!!」	職員と保護者との交流・相談事業	106人

特別活動

実施回数	活動	内容	参加人数
1回	早期からの「しつけ」の後押し事業(東京都事業)	出前講演会 「善いことは褒め、悪いことは叱ろう」	22人
通年(8回)	NP(ノーバディーズ・パーフェクト)プログラム	子育て中の親のグループワーク(親支援プログラム)	164人
1回	赤坂消防署との連携事業	乳児の救命救急講習会	20人
1回	サン・サン赤坂との連携事業	サン・サン赤坂職員による「認知症サポーター講座」	2人

(3) 妊婦対象事業・父親対象事業

特別活動

実施回数	活動	内容	参加人数
通年(1回)	プレママ応援企画	妊婦対象セラピー	2人
通年(2回)	イクメン応援企画	①パパと行こう!ワンダーフォーゲル ②イクメン・イクバ・イクジイ応援企画!陶芸教室 手形足形プレート	①32人 ②28人

4 年間行事報告

(1) 事業計画に基づく行事

実施月	活動	内容	参加人数	対象
4月	新入生歓迎会	1年生ゲームタイム、クイズなど入学・進級のお祝いと交流	101人	小学生~中高生
	子どもの日行事	足湯やミニゲームなどを行い、こどもの日を祝う行事	254人	全児童・保護者
5月	パパと行こう! ワンダーフォーゲル (アウトドアスポーツ)	「林試の森公園」への遠足 父親育児応援企画として開催。	32人	全児童・保護者
6月	親子交流行事 (バーベキュー)	家族間交流。バーベキューを実施する。	29人	全児童・保護者
	ロハスキッズ	親子運動会とりサイクル	164人	乳幼児・保護者
7月	納涼祭 (サン・サン& なんで~もまつり)	食べ物模擬店、ゲーム模擬店、ステージ発表など	1,331人	全児童・保護者・ 地域住民
8月	高学年キャンプ	「水郷小見川少年自然の家」でのキャンプ(1泊2日)	15人	小学校4~6年生
	低学年バスハイク	「こども動物自然公園」と「明治なるほどファクトリー坂戸工場」へのバス遠足	89人	小学校1~3年生
	中高生館内宿泊 (まなび舎)	中高生が自分たちで企画し、館内に宿泊	7人	中高生
	Summer Live 2017	中高生によるバンド、ダンスの発表	130人	中高生

	プラネタリウム	アリーナでプラネタリウムを楽しむ	201人	全児童・保護者
9月	あきる野 里山体験	あきる野市西戸倉へのバス遠足（自然体験）	35人	小学生～高校生 ・保護者
10月	乳幼児バスハイク	東武動物公園へバスで遠足	80人	乳幼児・保護者
	キッズシアター	外部団体による絵と音楽のコラボ演出、リサイクル	106人	乳幼児・保護者・サン・サン赤坂利用者、近隣保育園
11月	文化祭典	（高齢者）デイサービスとの交流イベント。国際交流・ステージ発表、中高生のお店、作品展など	563人	全児童・保護者・地域住民
12月	たんぼぼクラブ会クリスマス会	民生・児童委員と共催のクリスマス会	102人	乳幼児・保護者
1月	中高生音楽表現発表会（Teen's Live AKASAKA）	中高生によるバンド、ダンスの発表	164人	全児童・保護者・一般の方
	節分もちつき（児童・高齢交流）	節分豆まき、もちつき	266人	全児童・保護者
2月	中高生交流行事（鍋パーティー）	鍋パーティー、交流会	11人	中高生
3月	クラブカーニバル	各クラブの活動のまとめ、及び活動の成果発表	176人	小学生・中高生
	キッズランド	年令別グループの交流発表会、こぐま卒業式、リサイクル	123人	乳幼児・保護者

（2）連携行事

実施月	活動	内容	参加人数	対象
4月・9月	交通安全教室	警察のスクールサポーターによる交通安全ルールなどの講話	16人/16人	全児童・保護者
6月	プラザカップ（港区中高生フットサル交流大会）	港区の中高生プラザ4館との交流大会	21人	中高生
8月	港区5館合同 LIVE Minato Music Mates	赤坂、港南、高輪、神明、麻布の5プラザ共催で、交流を目的としたLiveを開催	55人	中高生

10月	港区児童館ドッジボール選手権大会	港区の児童館との交流大会	24人	小学生
11月・3月	火災予防講話	消防署員による火災予防の講話	27人	全児童・保護者
11月	赤坂・青山 ^{ともいく} 共育フェスティバル(檜町公園)	赤坂・青山地区の企業・団体が集まり、様々な活動を提供。「なんで〜もロケット作り、合唱・ソーラン節」で参加、協力	18人 (出演児童)	全児童・保護者
	プラザカップ (港区小学生フットサル交流大会)	港区内6プラザ合同の小学生フットサル交流大会。低学年と高学年に分け総当たりの試合を実施	33人	NDM5 登録者
12月	港区児童館交流会	港区内の児童館が集まり、日頃の活動を発表し交流を深める。「SDクラブ」クラブが出演	7人	SDクラブ登録者
	港区プラザ中高生バスケットボール交流大会	港区プラザ合同のバスケットボール交流試合	53人	中高生
2月	(東京都主催)児童館交歓フェア	東京都内の児童館が集まり、日頃の活動を発表し交流を深める。「レッツ!バトン!!」クラブが出演	20人 (出演児童)	レッツ!バトン!!登録者
	港区小学生バスケットボール大会	港区クラブチーム対抗バスケットボール大会	10人	小学生
	港区児童館卓球交流大会	麻布・高輪子ども中高生プラザを招き、交流試合	26人	小学生～中高生
3月	中高生フットサル交流	赤坂子ども中高生プラザで交流試合	13人	中高生
	福井県(越前市)紙すき体験	紙すき文化が継承されている越前地区で体験学習(交通費、宿泊費等は福井の主催者が負担)	3人	中学生

5 クラブ・サークル活動

<クラブ>

実施回数	活動	内容	参加人数	対象
31回	レッツ!バトン	バトントワリング・チアダンス (講師指導)	783人	小学生~中高生
11回	ちょこっとクッキング	料理活動・お菓子作り	245人	小学生~中高生
36回	ムジカ・ディ・バンビーノ	合唱・合奏	488人	小学生~中高生
40回	SD	ソーラン節・バレエ・ダンス (講師指導)	378人	小学生~中高生
49回	NDM5	フットサル (講師指導)	696人	小学生
32回	バスケットボールクラブ	バスケットボール	882人	小学生~中高生

※レッツ!バトンクラブは「SWING 赤坂」「区民まつり」「なんで~も文化祭」「東京都児童館交歓フェア」「クラブカーニバル」に出演

※ムジカ・ディ・バンビーノクラブは、「地域懇談会」、「共育フェスティバル」「なんで~も文化祭」「クラブカーニバル」に出演

※バスケットボールクラブは「港区小学生バスケットボール大会」を見学、「港区プラザ中高生バスケットボール交流大会」「クラブカーニバル」に参加

<子ども中高生サークル>

実施回数	活動	内容	参加人数	対象
通年 (11回)	フットサルサークル 「おりん財閥」	フットサルの練習	102人	中高生
通年 (7回)	バドミントンサークル 「スマッシュ」	バドミントンの練習	14人	中高生

<保護者自主サークル>

実施回数	活動	内容	参加人数	対象
通年 (37回)	美容体操サークル	講師を招いての 「ピラバレッチ体操」	543人	なんで~もを利用している児童の保護者
通年 (22回)	Kinana (フラダンスサークル)	講師を招いての フラダンス練習	176人	なんで~もを利用している児童の保護者
通年 (5回)	なんで~もメイド (工作サークル)	工作活動を楽しむ活動	29人	なんで~もを利用している児童の保護者

6 相談活動

主にキッズや学童クラブの保護者、クラブに所属している児童の保護者などから相談を多く受けた。また、中高生が信頼関係を築いた職員に相談するため、出勤日を確認して来館する児童も見られた。その他にも、電話での育児相談も数件あり、中には職員を指名して継続的に相談するケースもあった。

相談活動の一環として、今年度新たに乳幼児活動の「ここスキ！！」を始めた。あらたまった相談の場ではなくとも、保護者が気軽に相談や育児についての質問を行えるように配慮した活動で、職員との雑談の中から自然に悩みや子育ての大変さを打ち明けてくれることもあった。より親しみやすく、保護者の気持ちに共感しながら傾聴することを心がけた。

種別	主な相談内容	対象
電話 来館	小学生 ・友人関係について 中高生 ・思春期について ・進路について 保護者 ・トイレトレーニングやおむつ離れについて ・子どもの成長や発育について ・保育園等に通学する際の子どもの様子について ・子どもの友人関係について など	小学生・中高生 ・保護者

7 子ども・保護者委員会

今年度は「小学生の主体的・積極的な運営への関わり」をめざし、中高生を対象としている「なんで～も委員会」の小学生版として、「小学生なんで～も委員会」を3回行った。小学生が意見を言いやすいように、アリーナ、クラフト、メディアでの活動等と、各回テーマを絞り、企画についての意見や、日頃思っている要望などを会議形式で話し合い、その後お菓子を食べながらの雑談タイムでも、児童の気持ちを汲み取り、企画やルールに反映させた。メディアルームをテーマとする会議で「学童クラブ児童のゲームお休み日（水曜日）を変えてほしい。できればなくしてほしい」という意見・要望が出たことに関しては、学童クラブ保護者会でも話し合いをし、木曜日に変えることにした。

また、毎年、全利用者を対象として実施していた「本音で語ろう会」を、乳幼児の保護者に焦点を絞って行った。おもちゃの配置についてや「中庭に出たい」などの要望のほか、プログラムについて具体的にどんな活動が喜ばれたかを知ることができた。おもちゃの配置変更など、直ぐに対応できる要望については即日変更した。

実施月	活動	内容	参加人数	対象
2月	本音で語ろう会 「ママのティーパーティー」	楽しかったことや、やってほしいこと、館への要望などを自由に話し合う。	30人	乳幼児保護者
8月 11月 12月	小学生 なんで～も委員会	やってみたい企画、遊びや館内ルールなどについて意見を話し合い、自分たちで館の企画や遊びを主導する。	48人	小学生

8 国際交流活動

特別活動

今年度は「タイ」について学んだ。

実施月	活動	内容	参加人数	対象
7月	ゲーム店出店	納涼祭に出店。フルーツを模した3種類のボールの中から一つ選び、ボールを転がしてカゴに入れる。カゴに入れば景品を選べる。	408人	全児童・保護者・地域住民・関係者など
11月	タイ料理の店	文化祭に出店。お店スタッフを募集して、ガパオライスを調理・販売	182人	全児童・保護者・地域住民・関係者など
2月	タイ料理体験	バナナとココナッツの春巻きを作る。	13人	小学生～中高生

9 高齢者施設（サン・サン赤坂）との交流活動

特別活動

月	活動	内容	参加人数	対象
5月	サン・サン赤坂ツアー	「サン・サン赤坂」利用者との交流及び高齢施設での活動についての紹介	17人	乳幼児～保護者
6月	しゃぼん玉あそび	ふれあい広場において「シャボン玉」遊びで交流	31人	乳幼児～保護者
7月	七夕会	・デイサービスを訪問し、高齢者と一緒に七夕飾り作りを行う。 ・竹笹への飾り付けを高齢者と一緒に行う	8人	乳幼児～保護者
	七夕飾りつけ	七夕飾り付けを高齢者と一緒に行う。	7人	乳幼児～保護者
8月	スイカ割り	スイカ割りイベントを高齢者と一緒に楽しむ	136人	乳幼児～保護者
	盆踊り交流	デイサービス行事への参加	26人	乳幼児～保護者
	プラネタリウム交流	アリーナにおいて行うプラネタリウムを一緒に楽しむ	201人	乳幼児～保護者 地域住民
	打ち水交流	毎週月曜日の午後、乳幼児用プールで使用する水を再利用して打ち水を行う。	24人	乳幼児～保護者
9月	敬老会	サン・サン赤坂の各フロアを訪問	8人	乳幼児～保護者
10月	ハロウィン交流	ハロウィンの仮装をして、サン・サン赤坂各フロアを訪問	27人	乳幼児～保護者

	文化祭交流	・乳幼児グループ、小学生音楽クラブでサン・サン赤坂の各フロアを訪問 ・文化祭において、デイサービス利用者による合唱の発表 ・「赤坂いきいきプラザ」利用者の作品を展示	131人	乳幼児～保護者 地域住民
11月	おやつ作り交流	アリーナにおいて、おやつを食べたりゲームをしたりして楽しむ	99人	乳幼児～保護者
12月	クリスマス音楽会	アリーナにおいて、児童の音楽活動の発表、高齢者と児童での合唱を行う。(感染症流行に伴い高齢者は不参加)	44人	乳幼児～保護者 地域住民
1月	新年あいさつ会	サン・サン赤坂の各フロアを訪問し、新年のあいさつ交流を行う(感染症流行に伴い、高齢者は不参加。児童・交流行事とはならなかった。)	21人	乳幼児～保護者
	節分・もちつき	季節の伝統行事「節分」及び「寒餅」を高齢者と一緒に行う。(感染症流行に伴い高齢者は不参加。児童・交流行事とはならなかった。)	266人	乳幼児～保護者 地域住民
3月	PLAZANIA「クレープ屋さん」	PLAZANIA内で「クレープ屋さん」をアリーナにて行う	153人	乳幼児～保護者

10 地域交流活動、歴史・文化にふれる活動

【日常活動】

児童の健全な育成を図るため、小学校、中学校、保育園、幼稚園、民生児童委員、青少年委員、その他福祉施設などの地域施設や、関係者との連携に努めた。

具体的には地域懇談会の開催や、行事等での相互協力を通してプラザの専門性の地域への還元、児童の状況などの情報交換を実施した。

これらの活動を通して地域に関われた施設運営を行うとともに、地域との協力、交流が進むよう、日常的に地域との連携を深める活動を行った。

定期活動

実施予定回数	活動	内容	参加人数	対象
5月	威臨丸(かんりんまる)探検隊	赤坂氷川神社を訪問し、禰宜さんによる講話や参拝などの礼儀作法を学ぶ。	22人	小学生 中高生 保護者
10月		赤坂地区の和菓子屋「松月」さんを訪問し、和菓子について学ぶ。	20人	小学生 中高生 保護者
1月		みずほ銀行赤坂支店を訪問し、お金や銀行の役割などについて学ぶ。	16人	小学生 中高生 保護者

3月		赤坂地域の紅ミュージアムを訪問し、紅さし体験を行う。	9人	小学生 中高生
		近隣の公園へおでかけ。	61人	乳幼児とその保護者 (祖父母も含む)

特別活動

実施月	活動	内容	参加人数	対象
6月	赤坂小学校 PTA主催遠足	赤坂小学校PTA主催による遠足への引率の協力	職員 2人	赤坂小学校児童 保護者
9月	SWING 赤坂 2017	小学生によるパトンの発表、中高生によるバンドの発表、保護者サークルによるフラダンスの発表	47人	クラブ活動 参加児童
10月	みなと区民まつり	小学生によるパトンの発表	31人	クラブ活動 参加児童と その保護者
	地域合同防災訓練	赤坂消防署新町出張所の協力のもと、サン・サン赤坂、地域住民との合同による利用者参加型訓練	12人	全児童・保護者・地域
	いきいきプラザ 展覧会	赤坂いきいきプラザ主催利用者展覧会への出品	50人程度	乳幼児～保護者 地域住民
6月・11月	地域懇談会	地域の町会等代表者、施設、児童福祉関係者との情報交換	47人	関係者

11 ボランティア活動

ボランティアの受入れについては、以下のような事業がある。

＜受入れ事業＞：地域から自発的な申し出があった場合、内容、希望等を確認し、港区児童館等運営マニュアルに沿って、よく検討した上で企画実施した。

＜自主企画事業＞：当館の企画実施上、必要となる講師またはアシスタントに関しては、本人の承諾を得た上でボランティアとして協力していただいた。

＜子どもによる自主的な活動＞：当館の子ども達による地域貢献ボランティア活動。

【企画活動】

＜受け入れ事業＞

実施月	活動	内容	参加人数	受入人数
通年(1回)	講師による企画	HONDA 『ASHIMO 工作』	14人	3人

<自主企画事業>

実施月	活動	内容	受入数
通年(24回)	講師による企画	茶道体験、アロマハンドマッサージ、な～んでもお聞きします、英語であそぼう、インターネット講習、琴・三味線等	79人
通年(11回)	行事や企画の手伝い	納涼祭、文化祭、バスケットボールクラブ	63人
通年(12回)	中高生居場所事業等	よるで～も、NAN-SPO、まなびちゃん、TBP、バンドレッスン、サマ～ライブ	32人

<子どもによる自主的活動>

実施月	活動	内容	参加人数
7月・12月 (計3回)	子どもによるボランティア活動	地域の独居高齢者へ送る暑中見舞・年賀状づくり(みなとボランティアセンター「かんがり」への協力)、地域清掃	38人

12 食育活動

【企画活動】

実施月	活動	内容	参加人数	対象
5月 2月	自由調理	フルーツホットケーキ、チョコパフェ	18人 14人	小学生～中高生
9月	陶芸と調理	プリン皿作り・かぼちゃプリン調理	27人	小学生～中高生
11月	講師企画	かぼちゃとさつまいもおだんご	10人	小学生～中高生
11月	保護者料理企画	時短ごはん	14人	保護者
2月	父子クッキング	スムージーとサンドイッチ	13人	年長・小学生と父親
9月	乳幼児の自由調理	白玉だんごづくり	① 35人 ② 19人	①うさぎさんグループ ②こぐまさんグループ 親子
2月	乳幼児の自由調理	マカロニきな粉づくり	① 35人 ② 24人 ③ 22人	①りすさんグループ ②うさぎさんグループ ②こぐまさんグループ 親子

※ このほか、国際交流活動で「文化祭」出店、タイの料理作り開催

13 その他の活動

(1) 第三者評価

平成28年度以降、第三者評価については毎年ではなく、指定管理期間のうち1回受審することとなったことから、2年度目の平成29年度は、受審しなかった。

(2) 意見箱

プラザではキッズルーム、ラウンジ、アリーナ前に意見箱を設置し、広く利用者からの自由な意見を募っている。

児童からは、マンガの購入の要望や、企画の時間、アリーナなどの部屋が締切り(閉室)になっていることに対する不満などが寄せられた。

保護者からの意見には環境整備面の要望が多く、「キッズルームのおもちゃのかごは木製では危ないと思う」「おもちゃの不具合を直してほしい」などがあった。かごに関しては、布など他の素材も試しながら、より安全な物の導入を行った。また、わずかだが「乱暴な子どもがいて困っている」という意見も寄せられ、職員によるキッズルームでの見守りを強化し、保護者間でのトラブルを未然に防ぐよう努めた。

(3) 苦情対応

利用者からの苦情の申し出について、平成29年度は0件だった。

なお、苦情があった場合は、真摯に受け止め、改善すべきは、改善策を講じていく。

(4) 広報活動

①「なんで～もステーション」

毎月発行しているプラザの情報誌で、その月の行事や企画を掲載している。プラザのフロントで配布したほか、学校、保育園、幼稚園、地域の町会長・自治会長や民生・児童委員の方等への配布も行った。(2700部、館内配布は約200部)

英語版(表紙、乳幼児、小学生、保護者版)も毎月作成し、フロントで配布している。

②ホームページ

独自のホームページにより、随時、広報活動を行った。ホームページには、施設の概要や「なんで～もステーション」、台風時の対応等の最新情報・緊急連絡事項、サークルや「なんで～も委員会」の活動報告などを載せており、幅広い対象にプラザを紹介し、PRした。

また、利用者の要望により「FACE BOOK」のページを開設し、当館のステーション等の広報や年間行事の案内広報を開始した。

③『元気です』

社会福祉法人東京聖労院の広報誌。年3回の発行で、赤坂プラザ等で行われた行事の報告、行事の予定を掲載した。

(5) おもちゃの病院

毎月1回、専門のドクター(おもちゃ修理の先生)が港区内を巡回して来館し、壊れたり、動かなくなったりした利用者のおもちゃを修理し、再利用を図った。

実施月	活動	内容	利用人数
通年 (12回)	おもちゃの修理、再生	修理の技術を持った先生達が、破損したり、動かなくなったりおもちゃを診察し、治療し、機能を再生する。	101人

(6) アンケート

企画によっては、利用者にアンケートを取り、事業に取り入れるようにした。

企画名	アンケート内容	回答（実施）例
アリーナシアター	上映してほしい映画	君の名は、コナン、ポケモン、ハイスクールミュージカル 他
ラウンジ	新規購入本・マンガ おもちゃ	残念ないきもの図鑑・すみっこぐらし パイプレード 他

(7) 学校等との連携

- ① 地域の公立小中学校、保育園とは、学童クラブ入会児童に関して、あるいは必要に応じて、先生方と日常的に情報交換を行い、連携を図っている。
- ② 赤坂小学校とは、ア 赤小 PTA 自然体験部が実施する野外活動の支援要員として職員 2 名を派遣 イ 新入生オリエンテーションに、なんで～もを紹介するため職員を派遣 等のほか、ウ 館長が、学校評議員として学校運営に参画。
- ③ 「サン・サンなんで～も地域懇談会」に、地域の町会・自治会長、行政機関、青少年健全育成団体の関係者や幼稚園、小中学校、保育園等の教育機関等の長を招き、ご意見を聴取し、児童館での活動（ムジカディバンビーノクラブ【合唱】演技披露を含む）も紹介している。
- ④ 館長や職員が、学校の体育祭、文化祭等の行事や公開授業等に伺い、学校での子ども様子を参観し、日頃のコミュニケーションや児童の理解に役立っている。

Ⅲ 赤坂子ども中高生プラザ学童クラブ（放課後児童健全育成事業）

1 学童クラブ事業

（1）運営方針

赤坂子ども中高生プラザの事業の一つとして、学童クラブ事業（放課後児童健全育成事業）を行っている。安全・安心な生活の場であるとともに、健全育成の場として、プラザ内に専用の部屋と担当の職員を配置し、運営を行った。

（2）子どもとの関わり

子どもたちが、安心してのびのびと生活し、活動ができるように配慮した。健やかに育つ環境をつくるため、くつろげるスペースを設置したりし、宿題など学習への声かけをするなど、子どもたちが生活のリズムを作り、自立心が育つよう、支援に努めた。学童担当職員が児童との結びつきや信頼関係を深めるように交流を図った。

子ども同士の関係についても、お互いが楽しく、気持ちよく過ごせるよう、児童同士のトラブルについても細かく対応するよう努めた。

特別な支援が必要な子ども（被虐待児童を含む。）についても、集団の中で安心して過ごせるよう、必要に応じて（マン・ツー・マンで）サポートするなど配慮した。

また、夏・冬・春の外出や、学童クラブ独自の行事などを設けるほか、今年度は行事の司会を3年生にしてもらい、子どもたちが学童クラブの行事に対してより積極的に関わり、親しみが持てるように工夫した。

高学年が学童クラブ対象となって3年目を迎えたが、高学年の利用が増えたことも考慮し、どの学年も居心地良く過ごせるよう高学年児童の発達にあわせた関わりを持つように配慮した。また、3年生の第一学童の卒室、6年生の卒業など、成長の節目に際してイベントを行い、成長を祝った。

（3）家庭との連絡と相談活動

毎日の連絡帳でのやりとりや年3回の保護者会、個人面談等を通して、日々の子どもの様子をご家庭に伝え、よりよい運営を行うために、保護者と情報交換した。高学年児童を受け入れることとなってから3年目となったことを踏まえ、高学年の学童クラブでのルールを決める際に保護者とも意見交換をした。その他、保護者からの相談に対して、真摯に問題解決に取り組み、配慮が必要な家庭についても、保護者と連携して柔軟かつ丁寧に対応した。

また、秋と春に親子ふれあいイベントを行っているが、秋の親子ふれあいイベントは毎年大規模なものとなっている。今年は最初から「食事班」と「イベント班」に分けて実行委員を募り、両班が平行して大きなイベントを進められるようにした。実行委員になった保護者は、企画から当日の進行までを中心となって行ってくれた。食事班では、委員が他の保護者にも広く声を掛け、当日午前中から保護者を集め、料理の仕込みをするなど、滞りなくイベントが進むよう尽力してくれた。その甲斐あって、大盛況の中でもイベントは予定通りに行われ、懇談会にも余裕が生まれ、保護者と職員が交流を深めるのに多くの時間を費やすことが出来た。

その他の親子行事では、7月のプラザ行事の納涼祭において、学童クラブから「たこせん屋」を出店し、多くの保護者が参加、協力しあって、楽しい時間を過ごすことができた

2 日常活動の報告

概ね下記日課表に従った規則的正しい学童クラブ運営を行った。

(1) 日課表

【学校がある日の例】

13:30～	来室 勉強タイム あそび
15:00	おやつ開始
16:00	おやつ終了
17:00	帰宅開始 （「送り」2回）
19:00	退室

【学校休業日などの例】

8:00～	来室 勉強タイム あそび
12:00	昼食の準備、 お弁当 片付け・休憩
13:00	あそび
15:00	おやつ開始
16:30	おやつ終了
17:00	帰宅開始 （「送り」2回）
19:00	退室

(2) おやつ提供

保護者から毎月預かるおやつ代を使い、毎日午後3時から4時30分の間におやつを提供した。栄養面・安全面に配慮し、子どもたちが適切なエネルギー補給ができるよう工夫した。アレルギーのある子どもに対しても、保護者に状況を確認した上で、別のメニューを用意するなど、個別のきめ細かい対応を行った。

また、毎週水曜日に、プラザに併設されている高齢者施設の厨房で、手作りのおやつ（おにぎり・からあげ・やきそばなど）を調理してもらい、子どもたちに提供した。

さらに、月1回のお誕生会の日には、バースデーケーキ（子どもたちのリクエストに答え、アニメのキャラクター等をデコレーションしている）を提供した。メニューは、高齢者施設の栄養士や厨房の担当職員と話し合いながら毎月献立を決め、栄養面や子どもの嗜好を考慮して調理し、子どもに喜ばれた。これらのメニューは、保護者向けの学童クラブのお便り（「スター通信」）に前もって毎月掲載した。

また、今年はさらに子どもたちからメニューのリクエストを募り要望に応えた。

おやつメニューに関しては保護者からも「おやつ代の中からよくやりくりしてくれている」との話を多くいただき、手作りおやつの写真を保護者会で紹介すると歓声上がる等、保護者・子どもたちからも好評だった。

(3) 安全の確保

保護者の協力を得ながら、出欠の把握を徹底するとともに、子どもたちに対しても安全確保の意識が高まるよう、日常的に指導をした。

5月上旬までは、学童クラブ担当職員が新一年生を対象に赤坂小学校への「迎え」、自宅付近までの「送り」を実施し、これらを通じて、集団下校についての注意点等を指導した。

また、学童クラブに在籍する児童の居住地域が広範囲に及ぶため、児童の帰宅時の安全を図れるよう、年間を通じて、「5時帰り」、「5時45分帰り」の2つのグループに分け、職員が赤坂小学校まで、見守りながら送った。さらに、冬期（10月中旬～2月中旬）については、日暮れが早いことから、赤坂小学校の先（乃木坂駅付近・カンボジア大使館付近）まで、距離を延長して「送り」を行った。

(4) 家庭や学校等との連携

① 家庭との連絡等

連絡帳や個人面談を通してそれぞれの児童の様子を伝え合い、保護者との信頼、協力関係を築きながら、個々の状況や問題に関して、ともに考え対応した。また、保護者会や親子行事も開催し、同じ環境で子育てをしている保護者同士が交流し合える場を設けるとともに、職員と保護者が協力して子どもを育てるという視点から、一緒に児童の成長を見守っていく対応を基本にして運営した。

毎月発行のお便り「スター通信」により、学童クラブでの児童の様子を伝え、面談等に参加されない保護者とも相互理解が図られるよう、情報発信に努めた。

② 学校等との連携

お便りの交換や、様々な連絡・情報交換を通して、学校や放課GO→との協力関係が築けるよう注力した。また学童クラブの児童が個々に抱えている問題に関しては、積極的に学校と情報を交換を行い、速やかに解決が図られるようにした。

また、災害や不審者などの緊急事態が起きたときの下校については、学校と密接に連携し、安全に対応できるような体制を整備した。

(5) 子どもの様子

登録児童は29年度末時点で108名、日常的には平均57名前後の来室があった。学童クラブルームは、勉強をしたり、おやつを食べたりするほか、生活の拠点となる場所として、学年を超えた児童の集団が、多くの遊びを楽しんでいた。

昨年度に引き続き、第1学童クラブルームを低学年、第2学童クラブルームを高学年が使用することとした。高学年の居場所づくりへの配慮から、第2学童クラブルームは低学年の入室は不可としたが、第1学童クラブルームやプラザ内では、今までどおり学年を超えて交流する姿がみられた。第2学童クラブルームでは自分や友人の部屋のようにくつろぐ姿がみられた。第1学童・第2学童クラブルームとも、室内には畳スペースなどをつくり、ゆっくりとくつろげるように配慮した。

低学年では、グループ活動として縦割り班を作り、各児童の座席を縦割り班になるよう指定し、自然な異学年交流を促した。高学年も手作りランチパーティーや外出の際には、少人数ずつ各班に分かれて入ってもらい、高学年として低学年をサポートする役割を果たしてもらった。

毎月のお誕生会のゲームでは、縦割り班を積極的に活用し、人数が多い中で、年上・年下の子ども同士の交流が増え、学年を超えた縦のつながりが深まった。当館の学童クラブには、児童施設（プラザ）が併設されているので、クラブルーム内だけではなく、プラザ全体が遊び場となり、工作やスポーツ、パソコンなどの活動も各々自由に行っていた。

今年度は1年生・2年生全体が学校からの下校時、ふざけて遊んでしまったり、学校からのトラブルを引きずり、喧嘩をする等が多くあり、保護者からも相談の声があった。そのため、1年生に対しては例年より長い期間学校へのお迎えを行ったり、2年生に関しては来室経路で見守りをし、事故がないよう、またトラブルが続かないよう指導し対応した。

3 学童クラブ年間行事・活動報告

月	行 事	内 容	人数
4	「なんで～もツアー」	新1年生が各部屋を回り、職員から使い方・ルールなどの説明を受けた。	14人(1年生)
	「みんなであそぼう」	友達作りのきっかけになる集団ゲームや記念品に入れる手形カードの作成を行った。	42人(低学年)
	誕生会	「イントロクイズ」を行った。	58人(低学年)
5	誕生会	「連想ゲーム」を行った。	53人(低学年)
6	個人面談(1年生)	保護者と、児童についての情報を共有した。	13人
	誕生会	「職員クイズゲーム」を行った。	57人(低学年)
7	誕生会	「BINGOゲーム」を行った。	54人(低学年)
	第1回保護者会	自己紹介を兼ねて、懇談を行った。会計監査委員、親子ふれあいイベントの実行委員を選出した。子どもの様子を伝え、夏休みの過ごし方について話し合った。	15人 (保護者)
	納涼祭出店	納涼祭に親子で「たこせんべい屋さん」を出店した。	39人
8	誕生会	「イントロゲーム」を行った。	46人(低学年)
	「手作りランチ」パーティー	みんなで協力し、自分たちの昼食(サンドイッチ、おにぎり味噌汁、タコライス、流しそうめんの4回)を作った。	延べ 237人
	夏外出	墨田区の「すみだ健康スポーツセンター」に出かけ、プールで楽しんだ。	57人
	交流ランチ	サン・サン赤坂の高齢者と昼食を食べ交流し、高齢者への敬意と親しみを感じるようにする。(4回)	40人
9	誕生会	「クイズゲーム」を行った。	59人(低学年)
10	第2回保護者会	学童クラブでの夏休みを含めた児童の様子の紹介、Wiiの遊べる曜日の変更、冬季送りについて話し合いを行う。	17人 (保護者)
	秋の親子ふれあいイベント	親子でゲーム大会やおにぎらず作り、DVD鑑賞を行いアリーナに宿泊した。保護者との懇親会も行った。	155人
	誕生会	「インタビュー」を行った。	53人(低学年)
	個人面談(2・3年生)	保護者と、児童についての情報を共有した。(希望者のみ。「心配事は無い」と希望しない保護者が多かった)	8人
11	誕生会	「質問タイム」を行った。	56人(低学年)
	誕生会	「班対抗色当てクイズ」を行った。	50人(低学年)
	クリーンプロジェクト&年越しパーティー	クラブルームを大掃除し、お昼に「年越しうどん」を食べた。おやつにパンケーキを作り、子ども達の司会で発表やゲームを行った。	49人
	学童クラブ冬外出	「千代田区科学技術館」に出かけた。	44人
1	誕生会	「〇×ゲーム」を行った。	51人(低学年)
2	誕生会	「質問タイム」を行った。	55人(低学年)
3	誕生会	「イントロクイズ」を行った。	48人(低学年)
	第3回保護者会&親子ふれあいイベント	保護者会で会計報告と1年間の子どもの様子をスライドショーで上映し振りかえった。その後、サンドイッチロール作りを親子で行い、懇談をした。	41人
	学童クラブお別れ遠足	「池袋 namco ナンジャタウン」へ出かけた。	55人
	お祝いパーティー	DVD鑑賞をし、昼食はピザおやつにケーキを食べた。また、3年生の写真スライドショーを見て低学年の修了を祝い、第2学童への送り出しセレモニーを行った。また、6年生の卒業を祝うセレモニーも行った。	60人

Ⅳ 平成29年度の事業を振り返って

1 プラザの運営

平成29年度も、「更に、賑わい溢れるプラザを目指す」ことを事業運営の基本に据え、運営を行なった。

「賑わい」の判断にあたり、具体的な指標となるものが、来館・利用者数である。

来館者数に関しては、「1%増」を館の目標に設定し、職員に周知するとともに、毎月の来館者数や対前年同月比を記載した資料を職員回覧することなどにより、周知した。

しかし、平成29年度の児童館部門の来館者数は、対前年度比△5.3%減という結果となり、目標をかなり下回った。

ただ、前年度（平成28年度）が、対前々年度（平成27年度）比で6.8%と大幅増だったことが異例とも言える。前々年度と比べると1.2%増となっている。

過去3か年のプラザの利用延人数の推移

年度	27	28	29
利用延人数	65,304	69,772	66,096
増減率(%)	2.5	6.8	△5.3

平成29年度の利用延人数の内訳は、幼児（98.8%）、保護者（97.8%）、小学生（96.8%）と来館数が減少し、高校生（75.7%）、中学生（93.0%）は、5ポイント以上の減となった。

この要因としては、次のことが考えられる。

- (1) 高校生については、バンドの利用者が減少している。その原因として、高校によっては、部活の顧問教諭から、校外施設での利用自粛を指導されているとの声があり、その影響もあると思われる。
- (2) 小学生は、3年生と5年生が2ヶ台の大幅増となったものの、それ以外の学年は減少した。この原因としては、赤坂小学校の中に学童クラブ「放課GO→クラブあかさか」の開設に伴う「放課GO→への利用者の移動」や、児童の塾や習いごと通いが盛んになってきていることなどが考えられる。
- (3) 中学生については、課外部活動や塾への参加傾向が一層強まっているものと思われる。地元の赤坂中学校より、六本木中学や青山中学校生の利用が目立つ。

ところで、プラザでは、多彩なプログラムを用意し、飽きのこない事業運営を行ってきた。

平成29年度は、**新規企画**として、**全年齢層対象企画**では、「なんで～も15周年記念パーティー」のほか、「今日はカレーの日」、「コンチェルト・ピッチーナ」、**小学生対象企画**では、リクエストの聴取機会ともなる「小学生なんで～も委員会」や「ゴルフ&サッカー」「バレエ体験」「実験工作：スマホ・プロジェクター」、**乳幼児・保護者対象企画**である「ココスキ！（職員による育児相談会）」、「咸臨丸探検隊乳幼児版：キッズ・ピクニック」、**乳幼児の保護者対象**の「料理教室」や「ぬり絵・色鉛筆セラピー」、**イクメン（育児をする父親）対象企画**として、「パパとワンダーフォーゲル」、「パパと作ろうスムージー&サンドウィッチ」、**妊婦対象企画**としては、外部講師を呼んでの「私はどんなママになるのかな?!」、**小・中高生対象企画**である「ザ・卓球」、**中高生対象企画**としては、「ダンスレッスン」「似顔絵講座」、**高齢者施設（サン・サン赤坂）との交流事業**として「盆踊り会」「認知症サポーター講座」参加など、多くの新規企画を実施し、好評を得た。

平成29年度は、利用者全体の28%を占める「小学生」を重点対象と捉え、小学生の意向・希望に沿った企画・事業を多数実施したが、平成30年度は、**乳幼児・保護者**を重点に、事業展開していくこととしている。

2 学童クラブの運営

平成29年度も児童・保護者とも信頼関係を築き、安全・安心に過ごせる児童の居場所づくりという基本を重視し、円滑な運営を目標とした。

平成29年度は、前年度どおり、児童定員が120人となった。これに対し、年度当初の入会者は、101名（1年生：15名、2年生：34名、3年生：23名、4年生：14名、5年生：10名、6年生：3名）、途中入会：8名、途中退会1名で、年度末在籍者108名（最大在籍児童数も108名）であった。近隣の赤坂小学校以外の学校（インターナショナル・スクールや国・私立小学校など）に通う児童が多く、あわせて23名の在籍があり、これは他のクラブと比較しても多い人数と言える。

そのため各学校の休業日等の予定にあわせ、職員体制等を細かく調整し対応した。

また、赤坂小学校の放課GO→に学童クラブが設置されたことにより、登録者減が予想されたが、1年生は例年より減ったものの、他の学年はほぼ変わらなかった。赤坂小学校の近くに住む方には、入会面接時に放課GO→をお奨めしたが、「遠くても、引き続き「なんで～も」の学童でみてもらいたい」と言ってくださった方がほとんどだった。

保護者主催の「親子ふれあいイベント」でも、実行委員だけではなく、食事作りの下準備に多くの保護者が協力してくれた。保護者との関係は、概ね良好で、円滑な運営ができたと捉えている。

運営面では、児童の安全・安心な児童の居場所として、1年間を通じて円滑・順調に運営することができた。

今後も保護者と連携しながら、児童にとって心地よく安心できる居場所であるよう努めていきたい。

3 事業・企画の運営体制

平成29年度は、前年度から実施している「対象児童の年齢層別」の職員グループ制（職員が、プラザの「キッズ（＝乳幼児）」、「小学生」、「中学生」担当、それに「学童クラブ」のいずれかのグループに属する）を維持し、2年度目に入った。また、「学童クラブ」を除き、引き続き、担当者が各グループの日常業務に参加する「相互乗り入れ」方式も維持した。その結果、殆どの職員が児童館業務のどの年齢層にも抵抗感や苦手意識を持たずに対応できるようになってきている。

4 館内外で発生した事故

平成29年度は、「児童館内での身体的な事故」が6件あった。また、「館外での身体的な事故」は、なかった。

怪我に因る事故については、見守り要員を増やすなど防止対策を強化したことや、利用者の減による混雑の緩和もあり、前年度の12件から半減した。

「館内の身体的事故」のうち、骨折に至るような大けがの事故は発生しなかった。また、縫合処置を受けるほどの怪我もなかった。

館内発生事故としては、アリーナでのスポーツ中の打撲、捻挫、切創、及びプラザ廊下での足首捻挫といった軽傷事故が、合計で4件あった。

また、アリーナで、親子で楽しむサッカーの企画において、サッカーのプレー中、父親が肉離れを起こしたが、当日が日曜日だったため、救急搬送された。残りの1件は、アリーナ企画で幼児同士が顔と頭部をぶつけ合い、前歯（乳歯）をグラつかせる事故だったが、幸い乳歯であったため、医師からは、生え替わりにより修復さ

れるとの診断で、大事には至らなかった。

いずれも咄嗟の出来事で、職員が近くにいたが、防ぎきれなかった。

受傷者・保護者へは、保険や区の見舞金制度についても説明しご案内するなど、適切に対応したこともあり、苦情は生じなかった。

発生後は、保護者の事故を除き、職員がすぐ保護者に電話連絡等して経緯説明と謝罪をし、当該児童を近隣の医院に連れて行き付き添う等の丁寧な対応をしたうえで、保護者に引き渡した。

これらの事故に対しては、総合支所とも連携をとりつつ、保護者に対し、事故当時の状況や館としての対応、保険や見舞金制度等を丁寧に説明するなどの対応を行ったことにより、苦情には至らなかった。また、利用者と職員との日頃の良好な信頼関係がベースにあることも、苦情には至らなかった要因と考えられる。

今後は、引き続き児童に対する見守りを更に強化し、可能な限り事故防止に努めるとともに、事故の未然防止に向け必要な対策を講じるなど、より一層安全・安心に過ごせるプラザを目指していきたい。